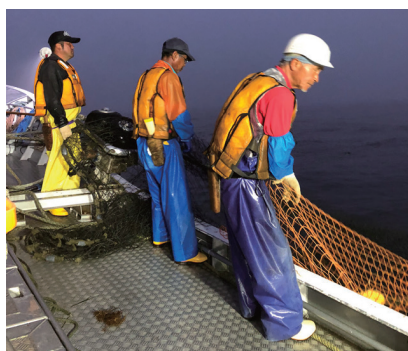


おいしい魚を
よりおいしくする。
—船上放血 神経抜き—



第31宝栄丸の船頭 木村太朗さん

右/午前3時過ぎ。出港の準備を行います。出港時間は午前3時30分。中央/第31宝栄丸のサケ定置網漁は、1日に4カ所の漁場で網を引き上げます。左/引き上げた網は、いったん水槽に入れます。活締め（血抜き）は、はさみでエラから動脈を切って新鮮な水が流れる水槽に入れ、魚の心臓がポンプの役割をし、血を抜きます。



ゼロからのスタート

「子どものころは、ばんえい競馬の騎手になることが夢でした」と話すのは、(有)木村漁業部代表取締役社長の木村太朗さん。

幼稚園、小学校低学年のころは、父親の船に乗ったこともありましたが、それ以降は全く船には乗っていません。

「祖父、父と漁師だったので、自分は漁師になる気が全くなくて、小学生の頃から小倉畜産（西1南4）へ行っては、馬や牛の世話をしていました。そういうことが好きだったんです。以前は、別海町や鹿追町などで行われていた草競馬にも騎手で出たことがあります。ちよūdō高校を卒業するくらいのときに、4市で開催されていたばんえい競馬が帯広市のみになるという話を聞いて、存続の危機と騒がれていました。それで漁師になったのですが、漁師の経験がなかったのも、本当にゼロからのスタートでした」

過去最低の水揚げ量に不安

木村さんが木村漁業部を継いだのは平成28年7月。三代目の代表